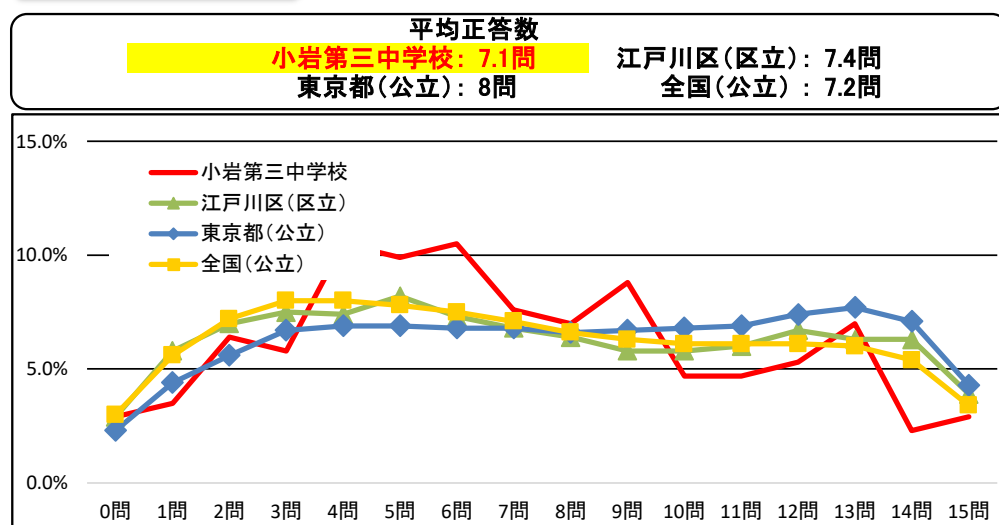


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】小岩第三中学校

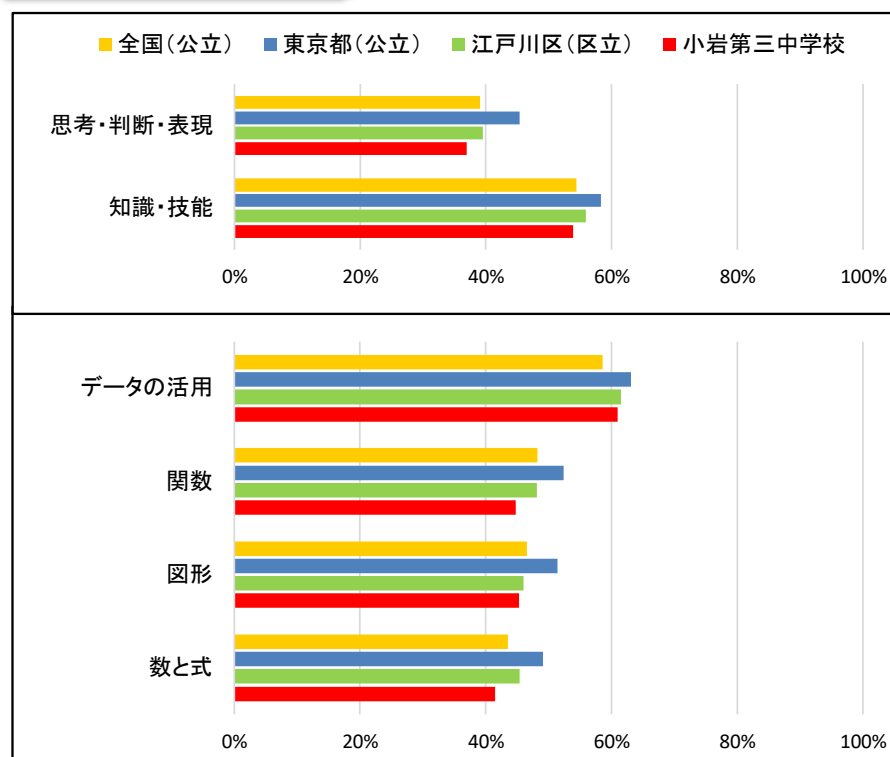
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

小岩第三中学校	47%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-6.0

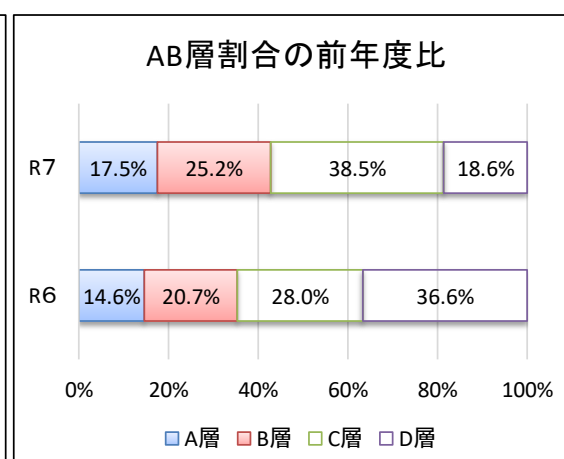
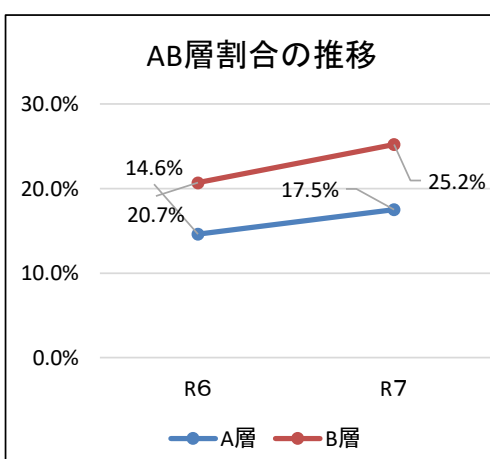
「領域別」の結果



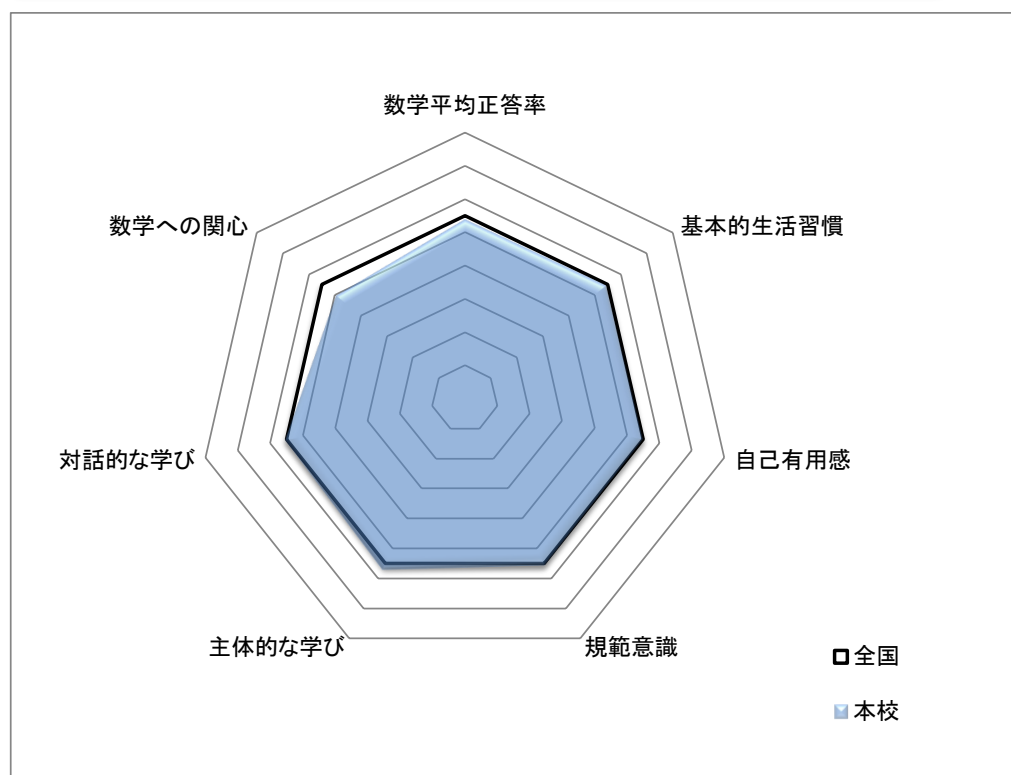
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
小岩第三中学校	17.5%	25.2%	38.5%	18.6%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全体に全国平均と非常に近い結果が出ている。平均正答率が全国に近い数値になっており、基礎学力はある程度定着しているといえる。領域別でみると「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」のポイントがより全国より低くなっており、その点での改善を図っていく必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭・地域と連携し、放課後学習教室やエドスクへの参加を呼びかけるなど基礎学力の向上をすすめる。学校・学年だよりや保護者会での情報発信を推進していく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

前年度と比較して、A層の割合が2.9%、B層の割合が4.5%、全体として7.4%増えている。全国と比較するとA層は3.4%下回り、B層は0.1%増えているが全体としては3.3%下回っている。現在行っている100マス計算やコグトレ、授業の振り返りなどを継続しながら「思考・判断・表現」について伸ばしていく必要がある。

・教員の指導力向上

同じ教科の教員同士で授業研究を行い、指導の工夫や問題点を共有し、指導力の向上を図っている。また、校内研修会での研究授業で他の教科の教員を見学し、授業の工夫や発問の仕方や支援について互いに学び合い、指導力の向上に取り組んでいる。

・基礎学力の保障

習熟度別少人数クラスにおいて、定期的にクラスを入れ替え基礎学力の定着を図っている。数学の授業だけでなく、100マス計算やコグトレを朝学習として実施しており、基礎を学ぶ機会を多くしている。さらに重点的に学びたい生徒には放課後学習教室への参加をすすめている。

・学習習慣の確立

提出物点検を通じて学習習慣の確立を促し、段階を経て理解していく体験を積み重ねることで、さらに自ら学ぶ意欲をもてるよう支援していく。定期考査前には、学習計画表を活用して計画的に学習し学習時間を確保するよう指導している。

・AB層の育成

基礎学力を身につけるとともに、発展的な学習を授業内で行っている。また、小グループ活動を取り入れ、自身の考えをより深めていく。